

2. 仁淀川の水質調査

生徒：私たちは仁淀川の水質調査をしています。15年度から行っている調査ですが、目的は仁淀川について調査して、川を知って環境を守っていこうということで行っています。調査項目は4つあり、まず科学的水質調査をしています。一般の水質基準項目のDOやpHなどの他にもNO₃などで水質浄化作用などの強さなども計っています。計る方法は簡易水質計を使って計っています。

2つ目に透視度について調べています。透視度の計り方については、二人ぐらい水に潜ってそれぞれの川の透明度を計るという方法です。方法は、プランクトンネットのヒモを用い、水に潜って色のついた棒が見える位置まで近づいていき、見える位置を測っていくという方法です。この結果としては、仁淀川が大体3m、長者川が4.5m、池川が6.5mぐらい見えるということです。冬の透視度調査については、川が寒いので今後の課題としています。

3つ目にプランクトンについて調べています。プランクトンは先ほど出てきたプランクトンネットを川に沈めて引っ張ってきて採取するという方法です。クチビルケイソウ、フナガタケイソウとか緑藻というプランクトンなど、他にもいろいろ採れています。でも、水が溜まっている仁淀川の方にしか余り生息していないみたいです。

もう1つ水生昆虫について調べています。水生昆虫は水質を指標するもののひとつとして計っていて、捕った昆虫は全て指標として私たちは計っています。昆虫はこの写真にあるようなものが捕れたりしています。

今後の課題としては、他の川についてのエリア拡大や、調査方法の改善、そしてもうすぐ廃校になるためにこの調査が継続できないということで、継続についても課題としています。

知事：(透視度調査は) 水平にやるんですか。

生徒：はい、そうです。川に対して垂直に、3方向と並行に3方向というような感じで調べています。

知事：水生昆虫で、採取した昆虫を指標に水質を見るというのは、こういう虫がいる所だったら水がこのようにきれいに分かるということでしょうか。

生徒：大体分かります。写真Aの昆虫は、本当にきれいな川にしかいないような昆虫なので、きれいな川という証拠になります。この辺の川では結構見られる昆虫です。他の写真B・Cはちょっと汚い川でもいるとか、そういうふうに結構分かれています。



A B C

知事：何年間か続けてきて、昔のデータとかも見たことありますか。仁淀川が段々どうなっているのか。きれいになっていますか。

生徒：平成 15 年度から調べていますが、きれいにというか、平均的にこのような数値が出ている感じです。

知事：仁淀川のような自然を全国の人にも知ってもらいたいし、逆に全国の人にも地元の人と一緒に大切にしてもらいたいと思います。

もうひとつ仁淀川が全国ナンバー 1 なことがあります。水質とかだけではなく、関連でいろいろ調べてみたら面白いですよ。仁淀川は 1 km 当たりの夏の水遊びをする人の数、全国第 1 位の川です。これは 1 位だったり 3 位だったりもしますが、何度か 1 位になったことがあります。沿線の人口がそんなに多いわけじゃないですが、人に親しまれる、きれいな川だということです。素晴らしいです。もっと調査を重ねて大切に守っていききたいと思います。

エリアの拡大というのは、どういう課題があるんですか。

生徒：今は主に、長者川と仁淀川とに分けて調査しています。他のダムがある所、ダムの中、さらに上流、他の似たような川とか、そういう場所も調べていきたいし、結果の比較もしていきたいということで、エリア拡大としています。

教育長：調査し、今後の課題ということで上手にまとめていると思います。次なる課題は何かということもきちんと把握をおり、素晴らしいです。

課題として書いたら実行しないといけませんが、冬どうしますか、潜りますか。冬の水質は、雨の影響が少ないから、実は一番確かなデータとして取りやすいんです。一般的には課題と書いたら克服しないといけなくなりますが、期待をしています。

生徒：頑張ります。

知事：体には気をつけて下さい。